



海峽通鑑

三

雜
番
九
五
印



深
澤
堂

^ 13
3142
3



才一 二張乃古琴

お樺賣虚中が妻お梅
樺の画梅の枝をその竹の乳やぬき

才二 二彦は結びあふ縁

お茶茶女道はお樺が妻とあふ
風分お終お命の二曲のしや

才三 せよ云はれし連理の枝

お樺珠と別て吹奏の人と樺せよ
史ぬ死して双の燕とあふしや

才一 三張乃古琴

らくは揚衣は秋の人よと夜や長らひあふ
の史は女よありて暇天版とあふ
史ぬ死して双の燕とあふしや

お樺賣虚中が妻お梅
樺の画梅の枝をその竹の乳やぬき
お茶茶女道はお樺が妻とあふ
風分お終お命の二曲のしや
お樺珠と別て吹奏の人と樺せよ
史ぬ死して双の燕とあふしや

琴書文庫



守俤学文
ひる



高梅いさゝか
守俤くろく
たいまこと
文

遠くへさかろく

盗
ま
た
た
ふ



松
た
ら
し
み



守
持
と
ら
げ
く
と
印
さ
ぐ

其をわらじをなまきくともそのそで歩き出せ乃
のぞきかきお親あなをそのころ月もあそ
國の津中一もさうぞくはる中とあつてさうさか
よふより津中津人山麓にまますよ津にちま
さうぞくはるまひさうぞくはる母まわらぬの
らまねお害せとも料もててたたふのそを
ま歌をうてつはる石のそまはるまひさうぞく
かからやあそくともなほあそくまはるつはる
まづ書ませんよあそくはるのそまはるまひ
ぞくれあそくはるあそくはるあそくはるま
く死をこたへわれまひさうぞくはるまひ
軍たひひつはるまひさうぞくはるまひ

まよとのそでわらじをなまきくともそのそで
とののそでわらじをなまきくともそのそで
はるあそくはるあそくはるあそくはるま
なま人もまひさうぞくはるあそくはるま
かりとのまひさうぞくはるあそくはるま
あそくはるあそくはるあそくはるあそくはる
まよとのそでわらじをなまきくともそのそで
塚あそくはるあそくはるあそくはるあそくはる
あよあそくはるあそくはるあそくはるあそくはる
らまねお害せとのそでわらじをなまきくとも
ともなほあそくはるあそくはるあそくはる
まよとのそでわらじをなまきくともそのそで

九
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

天地人の間一切の事国字分以て

博物笈

全部一冊或七冊出来

事理詳小由来年数等印時に見る書也

天地日月風雲雪霜の理を説國郡山川来
 曆と記し年々長曆并註日和降晴御武鑑
 年中行事神社佛閣神秘縁起諸職諸藝流
 義始末佛家十宗の起并流派公家武家学
 者歌道有職僧尼隱士雅樂申樂茶道能筆
 画工都和漢名譽人物妙算妙術秘傳金石
 草木器物等出所異名和漢年号年数等記

